参考資料3 IODP 関連略語集

AGU (American Geophysical Union)	米国地球物理学連合。1919 年に米国に設置された世界最大級の地球科学関連の学会であり、毎年 12 月にアメリカ(サンフランシスコ)にて開催。
APL (Ancillary Project Letters)	付属的計画提案書。既に提出されている掘削提案(プロポーザル)に対し、これに付加して実施するプロジェクトを記載するプロポーザルの一種。
APP (Annual IODP Program Plan)	IODP 年間事業計画。当該年度(米会計年度)における IODP の全体計画、科学計画、掘削船運用計画及び予算について規定された計画書。各 IO からの計画提案を IODP-MI と各 IO との間で調整後、IODP-MI が作成。SPPOC・IODP-MI BoG の承認を経て、最終的に LA の承認を受け実施される。
AORI (Atmosphere and Ocean Research Institute of University of Tokyo)	東京大学大気海洋研究所。前身は東京大学海洋研究所(ORI)と東京大学気候システム研究センター。海洋研究所は ODP において NSF と覚書を締結し日本の事務局を担当した。IODP においては 2004 年4月から 2005 年 9 月まで ORI 内部に SAO が設置された。
Biogeos (Institute of Biogeosciences)	海洋・極限環境生物圏領域。JAMSTEC の旧極限環境生物圏研究センター(XBR)と IFREE の古環境分野が統合して 2009 年 4 月に発足。海洋生物多様性、深海・地殻内微生物、海洋環境・生物圏変遷過程等の研究を実施。
BGS (British Geological Survey)	英国地質調査所。MSP 運用を行う ESO の中心となる機関。
BOP (Blow-Out Preventer)	噴出防止装置。石油・ガスの暴噴を防止する装置で、ライザーパイプに接続して使用する。
CDEX (Center for Deep Earth Exploration)	地球深部探査センター。「ちきゅう」の運用、スタッフサイエンティストの派遣、各種物理検層等の科学支援及び地震探査等の事前調査を行うために JAMSTEC に設置された組織。2002 年 10 月発足。
CDP (Complex Drilling Project)	複合型掘削プロジェクト。互いにリンクした複数の掘削提案を段階的に組み合わせ、包括的な科学目標を達成する大型プロジェクト。SAS によって CDP であると認定された場合、構成する個々の掘削提案は SAS に提出され、個別に評価された後にスケジュールに組み込まれる。
CIB (Chikyu IODP Board)	「ちきゅう」IODP 運用委員会。2013 年 1 月海洋研究開発機構に理事長諮問外部委員会として設置。2013 年 10 月以降の次期 IODP における、年間および長期の「ちきゅう」の IODP 科学掘削計画、ライザー掘削プロポーザル作成支援、および、掘削プロジェクトの調整等、に関する検討および助言を行う。メンバーは、研究者の代表 6 名、CDEX センター長、および、文部科学省代表となる。
CMCR (Center for Advanced Marine Core Research)	海洋コア総合研究センター。2003 年 4 月高知大学に設立。海洋コアの保管をはじめとし、コアを用いた基礎解析から応用研究までを一貫して行う研究設備を備える。日本の IO としての機能の一部を担い、IODP 掘削航海で採取されたコアの一部が保管される予定。
CMO (Central Management Office)	IODP 中央管理組織。IODP の年間事業計画策定、予算管理等を行う組織を指す機能名。2003 年 2 月、非営利法人である IODP-MI が IODP 開始後に CMO を担う機関としてデラウェア州法に基づき設立。

CNRS-INSU (Centre National de la Recherche Scientifique – Institut National des Sciences de l'Univers)	フランス国立科学研究センター国立宇宙科学研究所。ECORD の中心的組織である EMA の役割を担う。
COL (The Consortium for Ocean Leadership)	オーシャン・リーダーシップ。米国の海洋研究所連合法人であった JOI と、かつて JOI の一部であり、効率・民間の海洋研機関および教育機関を傘下に持つ非営利法人 CORE(Consortium for Ocean Research and Education)が統合し、2007 年に設立された。これにより、計 94 機関がコンソーシアムのメンバーとなっている。海洋掘削に関する JOI の機能は継承。
COMPLEX（Conference on Multiple Platform Exploration of the ocean)	複数掘削船国際科学者会議。ライザー掘削船とノンライザー掘削船の二船体制での科学目標設定のための科学会議で、JOI の主催によりバンクーバーにて 1999 年 5 月に開催された。
CONCORD（Conference on Cooperative Ocean Riser Drilling)	ライザー掘削国際科学者会議。ライザー掘削船の科学目標設定のための科学会議で、JAMSTEC 他が主催となり東京にて 1997 年 7 月に開催された。
CORK (Circulation Obviation Retrofit Kit)	長期間隙流体計測装置。掘削孔を密閉し、海底下の間隙水の流動を計測する装置。孔内に温度計、圧力計、採水ホース等が設置される。ODP の航海でも度々使用された。更に発達した A-CORK(Advanced CORK)も開発され使用されている。
CPP (Complementary Project Proposal)	補完的計画提案書。70%以上の経費を外部資金でまかない掘削船を運航し、科学的成果を目指す提案書。通常の Full Proposal の評価プロセスとは異なり、SSEP にて高評価を得た CPP は SPC に上程され、実施するかどうか審議される。CPP による掘削航海は通常の IODP の航海やサンプリングポリシーにのっとって実施される。
CRISP (Costa Rica Seismogenesis Project)	コスタリカ地震発生帯掘削計画。ライザー掘削を含む IODP 掘削計画の固有名であり、2011 年に最初の掘削航海（ノンライザー掘削）が計画されている。
DPG (Detailed Planning Groups)	詳細計画検討グループ。短期的に掘削実施に向けた詳細な計画等を検討するため、SPC によって設置される。メンバーは、SPC により選出された専門家で構成される。
DSDP（Deep Sea Drilling Project)	深海掘削計画。1968 年から米国によりグローマー・チャレンジャー号を用いて実施された計画。1975 年、新たに6カ国が参加し IPOD に発展した。
DPS (Dynamic Positioning System)	自動船位保持システム。深海掘削船で最も重要な装置の一つであり、海上での風・波・潮力に流されることなく、船体を掘削サイト上の一定範囲内に保持するための装置。
EC (European Commission)	欧州委員会。欧州連合(EU)の執行機関にあたる。国際法人格を有し、共同体事項につき対外的に EU を代表する。IWG に参加
ECORD (European Consortium for Ocean Research Drilling)	欧州海洋研究掘削コンソーシアム。IODP に参加するために、ヨーロッパを中心に 2002 年 1 月に暫定的に設立。2003 年 12 月、英・仏・独をはじめ欧州 12 カ国が参加、正式に発足。2004 年 3 月、NSF 及び MEXT との参加覚書に署名、IODP に正式参加。2013 年 8 月現在、欧州から 18 ヵ国が参加している。
ECORD Council (European Consortium for Ocean Research Drilling Council)	ECORD 評議会。IODP の全体的事項に対し欧州の共通方針を構築する評議会。ECORD 参加国より各 1 名ずつが代表として出席する。2003 年 10 月、パリにて第 1 回会議を開催。

ED (Engineering Development)	技術開発。IODPにおいては、既存機器の機能・性能向上ではなく、科学目標を達成するために必要な革新的な機器及びシステムの開発を指す。
EDP (Engineering Development Panel)	技術開発パネル。SAS 内パネルの一つで、IODP における技術開発の検討、優先順位付け等を行うため前身の技術アドバイスパネル(TAP)を改編し 2005 年 9 月に設置。2011 年 2 月をもって終了。
E-FB (ECORD Facility Board)	ECORD 運用委員会。ECORD により運用される MSP の年間運航計画の決定、および、長期運航計画に関する助言を行う組織。2013 年 3 月に第 1 回委員会開催。メンバーは、研究者の代表 5 名に加え、ECORD COUNCIL コアメンバー、ESO 代表、ESSAC 議長、ECORD リエゾンパネル議長、EMA ディレクター、および、各ファンディングエージェンシー代表者となる。
EMA (ECORD Managing Agency)	ECORD 管理機構。ECORD 参加各国からの資金管理等を行う ECORD の中心的な組織を指す機能名。CNRS-INSU がその役割を担う。在パリ。
EPC (European Petrophysics Consortium)	欧州岩石力学連合。IODPにおいて、独ブレーメン大学と共にESOの一員としてMSP用の各種物理検層を担当。
EPSP (Environmental Protection and Safety Panel)	環境保護安全パネル。掘削計画について環境汚染防止・安全面から検討を実施する。2004 年 6 月より、環境面への配慮・検討を重点的に行うため前身の汚染防止安全パネル(PPSP)を変更。
ESF (European Science Foundation)	欧州科学財団。1974 年設立の国際民間非営利連合。欧州各国の国立機関が会員として参加し、欧州の科学・研究を包括的に推進することをその目的とする。IWG に参加。
ESO (ECORD Science Operator)	ECORD 科学運用組織。ECORD の MSP 運用業務等を行う組織の機能名であり、BGS、EPC 及び University of Bremen(ブレーメン大学。コアの保管を担当)の 3 者により構成される。BGS が中心的役割を担う。
ESSAC (ECORD Science Support and Advisory Committee)	ECORD 科学支援・諮問委員会。ECORD への科学的なアドバイスを提言するために設立された委員会。
HSE (Health, Safety & Environment)	労働安全衛生及び環境保全。現場作業・事務作業を問わず、あらゆる仕事・生活において最優先に考慮されるべき事柄。石油掘削業界で広く用いられている用法である。CDEX は HSE-MS を導入。
HSE-MS (Health, Safety & Environment-Management System)	労働安全衛生及び環境保全管理システム。HSE を管理・向上させるためのシステム。
ICDP (International Continental scientific Drilling Program)	国際陸上科学掘削計画。陸上や湖沼で行われる各種科学掘削計画を推進するための国際プロジェクト。ドイツを中心に 1996 年に発足し、2013 年現在、独・米・中をはじめとする 23 ヶ国及び関連機関・企業が参加。日本は 1998 年から参加。
IFREE (Institute for Research on Earth Evolution)	地球内部ダイナミクス領域。JAMSTEC 内に固体地球統合フロンティア研究システムとして 2001 年に設置。その後、2004 年 7 月に深海研究部と統合。地球内部構造、地球内部物質循環、プレート挙動解析、海洋底ダイナミクス等に関する研究を行う。
INVEST (IODP New Ventures in Exploring Scientific Targets)	次期科学目標検討会議。2013 年以降の海洋科学掘削の科学目標を検討するワークショップとして IODP-MI の主導のもと、2009 年 9 月にブレーメン大にて開催された。世界各地から 500 名を超える科学者、技術者、関係者らが集まった。

IO (Implementing Organization)	実施機関。IODP において、掘削船の運用・管理、サイトサーベイデータバンク、コアの保管をはじめとする各種業務を実施する組織の機能名。
IODP (Integrated Ocean Drilling Program)	統合国際深海掘削計画。日米主導の新しい深海科学掘削計画。国際協力のもと、日本のライザー掘削船「ちきゅう」と米国のノンライザー掘削船の 2 船を主力掘削船として運用し、新しい地球科学・生命科学のため海洋科学掘削を行う。2003 年 10 月 1 日より開始。
IODP Council (Integrated Ocean Drilling Program Council)	IODP 評議会。IODP 参加国の担当機関代表から構成され、基本的に毎年 6～7 月に開催される。IODP 全般について意見交換・調整を行い各国間の共通認識の構築を目指す。第 1 回会議は 2003 年 12 月サンフランシスコにて開催。
IODP-MI (Integrated Ocean Drilling Program Management International, Inc.)	IODP 国際計画管理法人。2003 年 2 月、米国デラウェア州法に基づき非営利法人として設立。NSF との契約により 2004 年 4 月から業務を受託。ワシントン D.C.および札幌に事務所が設置されていたが、オフィス統合により 2009 年 11 月に東京海洋大・越中島キャンパス内に一般社団法人として IODP-MI 日本法人を設立。
IODP-MI BoG (Integrated Ocean Drilling Program Management International, Inc. Board of Governors)	IODP 国際計画管理法人理事会。非営利法人である IODP-MI の運営・各種業務・資金の管理等に関する権利を有する理事会。基本的に年に 1 回開催される。
IPOD (International Phase of Ocean Drilling)	国際共同深海掘削計画。これまで米国のみであった DSDP に日本、仏国、西独、英国、ソ連が参加して 1975 年より開始した計画。1983 年に終了。DSDP と同様にグローマー・チャレンジャー号を運用。
ISP (Initial Science Plan)	IODP 初期科学計画。IPSC が作成、2001 年 5 月に刊行。「地下生物圏と地殻内流体」、「環境変動とその生物圏への影響」、「固体地球における物質循環とそのダイナミクス」の 3 つの基本テーマの下、IODP 初期 10 年間の科学目標が示されている。
IWG/IODP (International Working Group for IODP)	IODP 国際ワーキンググループ。IODP 参加の意思を有す国又は機関の代表から構成され、IODP に関する基本的事項について検討するとともに各国間の共通認識の構築を目指した。1997 年 9 月に第 1 回会合が開催され、2003 年 6 月カプリ(伊)にて第 11 回の最終会合が行われた。
IWG+ (International Working Group Plus)	次期深海掘削計画に関する国際ワーキンググループ。IWG/IODP を発展させ、2013 年以降の海洋科学掘削計画の枠組みを検討する組織。2009 年 6 月に第 1 回会合がワシントン D.C.で開催された。事務局は IODP-MI が担当。
JAMSTEC (Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology)	独立行政法人海洋研究開発機構(前海洋科学技術センター)。IODP の日本における総合推進機関。内部には CDEX や、研究領域として IFREE、Beogios 等が設置されている。
J-CORES (JAMSTEC - Core Systematics)	ODP 時に開発されたコア試料のデーターベースシステム(JANUS)との互換性を保ちつつ、JAMSTEC が新たに開発したデーターベースシステム。データの登録・編集・閲覧等の機能を有する船上における統合研究支援システムである。
J-DESC (Japan Drilling Earth Science Consortium)	日本地球掘削科学コンソーシアム。2003 年 2 月発足。大学・研究機関と賛助会員からなる連合体組織。地球掘削科学に関する研究計画の立案、研究基盤の構築、普及広報等を担う。内部に設置される IODP 部会は SAS パネル委員、乗船研究者及び IODP-MI BoG 委員の推薦を行う。2004 年 4 月には陸上掘削部会が発足。2010 年現在、部会の支援事務局を海洋研究開発機構地球深部探査センター内に置く。

JpGU (Japan Geoscience Union)	日本地球惑星科学連合。地球惑星科学関連の学会の多くが加盟する連合組織。地球物理学、地質学、鉱物学、地理学等に関する学会を網羅する(2005 年 9 月現在、加盟 25 学会、総会員数約 4 万人)。毎年 5 月に関連研究者、教育者、大学生等が一同に会する合同大会を開催。2005 年 5 月に設立。
JOI Alliance (Joint Oceanographic Institutions Inc. Alliance)	JOI 連合。ノンライザー掘削船の運用等を行う SIC を担当し、JOI・TAMU・LDEO の 3 者で構成されていた。JOI が The Consortium for Ocean Leadership (COL)に改組されたため、現在は Ocean Leadership Alliance または単に U. S. Implementing Organization (USIO)という。
JOIDES (Joint Oceanographic Institutions for Deep Earth Sampling)	深海底試料採取国際研究所連合。ODP の科学目的達成のため、JOI へ科学的アドバイスを行う機構。米国の研究機関及び国際的パートナーで編成され、複数の委員会やパネルが内部に設置された。
JR (JOIDES Resolution)	ジョイデス・レゾリューション号(JR 号)。ODP において運用されたノンライザー掘削船。1985 年就航。IODP 開始後も、米国の提供するノンライザー掘削船として使用されている。
JRFB (JR Facility Board)	ジョイデス・レゾリューション号運用委員会。米国実施機関により運用される JR 号の年間および長期運航計画の決定、各種科学サービス実施計画の決定、また、各種助言パネルに関する管理等を行う組織。2013 年 3 月に第 1 回委員会開催。メンバーは、研究者の代表 5 名、JR 号を利用した米国 IODP メンバーシップへの参加国または機関代表、および、JR 号運用機関となる。
KCC (Kochi Core Center)	高知コアセンター。高知大学と海洋研究開発機構が共同で運用している高知大学海洋コア総合研究センター施設(CMCR)の共通名称(通称)。IODP のコア保管庫の機能も備える。
KIGAM (Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources)	韓国地質資源研究院。IAC の代表機関として 2006 年に 6 月に MEXT 及び NSF と参加覚書を締結し、IODP に参加。
LA (Lead Agency)	主導機関。IODPの主要な掘削船を提供し、全体計画経費を決定するとともに全体計画経費を均等に負担する機関のこと。計画の中心となる機関であり、MEXT・NSF を指す。LA は互いに同等の権利・義務を有し、IODP Council の議長を交代で務める。
LDEO (Lamont-Doherty Earth Observatory of Columbia University)	コロンビア大学ラモントドハティー地球研究所。JOI Alliance の一員であり、IODP においては主にノンライザー掘削用の各種物理検層を担当する。
LWD (Logging While Drilling)	掘削時同時測定・検層。孔内計測、いわゆる電気検層を掘削時にリアルタイムで行う手段。比抵抗・ガンマ線・密度・音波等の基本的な電気検層の種目のみならず、掘削時に必要な判断の手がかりとなる情報も伝達される。
MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)	文部科学省。IODP を NSF とともに主導する日本の担当官庁。
MSP (Mission Specific Platform)	特定任務掘削船。日本のライザー掘削船と米国のノンライザー掘削船の 2 船では対応できない領域(極域、浅海域)において科学掘削を行うために利用される掘削船のこと。
MOST (Ministry of Science and Technology)	中国科学技術部。中国における IODP の担当官庁。2004 年 4 月に MEXT 及び NSF と参加覚書を締結し、中国は準メンバーとして IODP に参加。

NanTroSEIZE (Nankai Trough Seismogenic Zone Experiment)	南海トラフ地震発生帯掘削計画。IODP 掘削航海の固有名であり、2005 年 10 月、SPC において「ちきゅう」を用いた最初の研究航海として決定された。地震発生領域境界深度における巨大衝上断層系を探査し、巨大地震の発生メカニズムの解明を目指す。2007 年 9 月より実施中。
Non-riser drilling	ノンライザー掘削。Riserless drilling とも言う。BOP、ライザーパイプ等を用いず、船上へ戻る泥水循環を行わないで掘削する方式。
NSF (National Science Foundation)	米国国立科学財団。これまで ODP を主導してきた米国の科学財団。日米主導の IODP の米側カウンターパート。
Ocean Leadership (The Consortium for Ocean Leadership)	オーシャン・リーダーシップ。米国の海洋研究所連合法人であった JOI と、かつて JOI の一部であり、公立・民間の海洋研究機関および教育機関を傘下にもつ非営利法人 CORE（Consortium for Ocean Research and Education）が統合し、2007 年に設立された。これにより、計 94 機関がコンソーシアムのメンバーとなっている。深海掘削に関する JOI の機能は継承。
ODP（Ocean Drilling Program）	国際深海掘削計画。米国主導(22 か国参加)で 1985 年から始まり、2003 年 9 月末に終了。ジョイデス・レゾリューション号を運用。
ORTF (Operation Review Task Force)	運用事後評価タスクフォース。IODP 航海の 1～6 ヶ月後に、当該航海の運用上の評価を行う。
OTF (Operations Task Force)	運用検討タスクフォース。IODP-MI に設置されるタスクフォースで、SPC にてランキングされた掘削提案(プロポーザル)について個々の詳細な情報を吟味し当該年度の複数の掘削シナリオ(実施順序)を作成する。旧称は OPCOM。
PANCH (Panel Chairs Meeting)	パネル議長会合。SAS 内各パネルの議長がメンバーとなり報告等を行う。正式な会合ではないが、通常年1回程度、SPC と同時に開催されることが多い。
PEP (Proposal Evaluation Panel)	プロポーザル評価パネル。前称は SPC。IODP 科学計画に基づいたテーマ毎に掘削提案(プロポーザル)の評価を実施。また、JR 号 FB およびその他 FB に送るべきプロポーザルの選定、並びに、プロポーザルが不足している IODP 科学計画のテーマに関し、国際コミュニティに対するプロポーザル促進の働きかけ等を行う。毎年 2 回開催。
PMO (Program Member Office)	プログラムメンバーオフィス。IODP 参加各国において SAS 委員や乗船研究者の公募・推薦等を行う機関（ナショナルオフィス）の総称。日、米、ECORD、中国、IAC においてそれぞれ、J-DESC、USAC、ESSAC、MOST、K-IODP に相当する。
PMT (Project Management Team)	掘削計画実施管理チーム。特に CDP について、実際の掘削を視野に入れたマネジメントの方策及び掘削計画を検討するために設置される。メンバーは、掘削を実施する IO の他、掘削提案者(プロポーネント)、SAS パネル委員、IODP-MI 等の代表で構成される。旧称は PSG。
POC (Platform Operations Cost)	掘削船運用経費。IODP 全体計画経費の中の掘削船運用に関する経費で、その掘削船を提供する国もしくは組織が基本的に提供する。
Post-Expedition Meeting (1st)	研究航海レポート編集会議。船上で書いた成果レポートの公開に先立ち、編集・校正等を行う。
Post-Expedition Meeting (2nd)	研究航海科学成果会議。サイエンスパーティーの要望によって開催され、科学成果、今後の研究、成果の出版予定について話し合う。

PPG (Program Planning Groups)	掘削計画検討グループ。既出の掘削提案(プロポーザル)のみでは到達できない科学目標を達成する事を目的として、掘削計画や技術開発の戦略を検討するため、SSEP もしくは SPC によって短期的に設置される。メンバーは、SPC により選出された掘削提案者(プロポーネント)や専門家で構成される。
PRL (Proponent Response Letter)	外部評価に対する掘削提案者返答。提出された掘削提案(プロポーザル)に対して、SSEPs が外部評価(external review)を依頼し、評価者から出された質問について、掘削提案者(プロポーネント)が返答する文書のこと。
RCB (Rotary Core Barrel)	標準ロータリーコアバレル。ドリルビットを回転させながらコアリングするシステム。固結した硬い堆積物、火成岩基盤等のコアを採取するために用いられる主要なシステム。
RFP (Request For Proposals)	提案要請書。公開調達の際に発注元が提示する調達要件等を取りまとめた仕様書。
Riser	ライザー。掘削船と海底(孔口)を結ぶ大口径のパイプとその付属設備の総称。泥水の流路となるほか、ドリルパイプ等の降下のガイドとしての役目も担う。
Riser drilling	ライザー掘削。海底面に BOP を設置し、その上部に船上までつながるライザーを備え、泥水循環を行いながら掘削する方式。ノンライザー掘削と比較して、より安全により深く掘削することが可能となる。石油掘削の一般的方式。
SAS (Science Advisory Structure)	科学諮問組織。IODP-MI に対して、IODP へ提出された掘削提案(プロポーザル)の評価及びランキング、IODP の科学面における中長期的な指針の策定等を行うために複数の委員会およびパネル、ワーキンググループ等により構成される。
SASEC (SAS Executive Committee)	科学諮問組織執行委員会。もともとは科学計画・方針監理委員会(SPPOC)として発足したが、2006 年 4 月に SASEC に改組された。SAS の最上位に位置する委員会であるとともに、IODP-MI BoG の委員会でもある。IODP 科学計画全体への科学的・政策的な提言、SS 内委員会及びパネルの統括、APP の承認等も行う。
SC (Specialty Coordinator)	CDP において、航海毎の記載や分析、計測結果の違いをなくし、均質なサイエンスの成果を出せるように CDP 全体計画の中で、各専門性に応じたコーディネーションを行うポジション。PMT のメンバーでもある。
SCP (Site Characterization Panel)	サイト評価パネル。前称は SSP。掘削提案における掘削候補地点の事前調査を評価・助言するパネル。毎年 2 回開催。
SEDIS (Scientific Earth Drilling Information System)	科学地球掘削情報サービス。それぞれの掘削船及びコア保管庫で得られた各種データを、一括して統合的に管理するデータマネージメントシステム。
SIC (System Integration Contractor)	統合システム請負者。米国ノンライザー掘削船の改造・提供・管理・運営、及び他の関連する科学支援を一括して請け負う組織を指す機能名。JOI Alliance が担当していたが、改組に伴い現在は The Consortium for Ocean Leadership がその機能を継承している。
SMCS (Sample Material Curation System)	IODP で採取されたサンプル(試料)についての情報管理システム。IODP-MI と IO が協力して開発を進めている。このシステムでサンプル間の相関関係、試験作業履歴、出入庫情報等の基本情報が管理される。また、このシステムを使って全世界の研究者が新たなサンプルを申請することができる。
SOC (Science Operation Cost)	科学運用経費。IODP 全体計画経費の中の科学運用に係わる経費。具体的には、掘削船上における科学研究の実施、陸上におけるコア及び関連データの管理、海上活動の支援、教育・普及広報及び計画管理・運営に関する経費のこと。

SODV (Scientific Ocean Drilling Vessel)	新ノンライザー掘削船。米会計年度 2007 年より JR 号の後継船として米国が提供する予定の船舶に対する機能名。2005 年 11 月、NSF は JR 号を改造し SODV として使用することを決定した。最終的に SODV は JR 号として呼ぶこととなった。
SPC (Science Planning Committee)	科学計画委員会。SAS 内の委員会で、掘削提案(プロポーザル)のランキング、ISP に基づいた IODP 実施の検討・提案、各種ワーキンググループの設置、国際コミュニティに対するプロポーザル促進の働きかけ等を行う。2003 年 9 月、札幌にて第 1 回会議が開催された。次期 IODP への移行に伴い、2011 年 12 月開催時より PEP へと改名。
SSDB (Site Survey Data Bank)	事前調査データバンク。IODP の掘削提案(プロポーザル)に附属する事前調査データを管理・閲覧するシステム。これまで LDEO に設置されていたが、2005 年 9 月より米国スクリプス海洋研究所及びサンディエゴスーパーコンピューターセンターに移管された。
SSEP (Science Steering and Evaluation Panel)	科学立案評価パネル。SAS パネルのうち、IODP へ提出された掘削提案(プロポーザル)の評価を担当する。発足当初は専門分野に応じて ESSEP 及び ISSEP の2分科会構成であったが、2005 年 3 月より SSEP として統合された。4 月 1 日・10 月 1 日のプロポーザル提出締切を受け、毎年 5 月・11 月に開催。
SSP (Site Survey Panel)	事前調査パネル。掘削提案における掘削候補地点の事前調査を評価・助言する SAS パネル。毎年 2 月・7 月に開催。次期 IODP への移行に伴い、2012 年 8 月開催時より SCP へと改名。
STP (Scientific Technology Panel)	科学技術パネル。SAS パネルの一つであり、船上計測・孔内計測・サンプル配布・データベース等の検討を行う。2005 年 7 月より、必要に応じて掘削提案の評価及び IODP-MI への助言を行う機能を加えることを目的として旧科学計測パネル(SciMP)を改組して設置。
TAMRF (Texas A&M Research Foundation)	テキサス A&M 研究基金。テキサス A&M 大学内にある独立の非営利組織であり、テキサス A&M 大学の業務管理部門(administrative services)を担当。
TAMU (Texas A&M University)	テキサス A&M 大学。米国の IO の一員であり、IODP においてノンライザー掘削船の運用、各種支援等を行う。
USAC (U.S. Science Advisory Committee)	米国科学諮問委員会。米国の研究機関等により構成される委員会で、USSSP への助言や IODP に関する米国内科学コミュニティの活性化・連携の強化等を目的として活動する。IODP 開始当初は USSAC と略していたが、現在は USAC へ改められている。
USIO (United States Implementing Organization)	米国実施機関。JOI 連合から改編。COL・TAMU・LDEO の 3 者で構成され、ジョイデス・レゾリューション号および各種科学サービスの運用を行う。
USSSP (U.S. Science Support Program)	米国科学援助プログラム。ODP の成果を使用した米国の海洋科学掘削に関わる発展的研究の援助、教育機関への普及等を目的として、JOI により 1984 年より開始された支援計画。現在は The Consortium for Ocean Leadership が実施している。
VIV (Vortex Induced Vibration)	渦励振。流れの中でパイプの後方に渦が発生し、これにより流れと直角方向にパイプが振動する現象。長期間続くとパイプの疲労問題が発生する。